

## 年頭のご挨拶

東北地質調査業協会 理事長 早坂 功



新年明けましておめでとうございます。

今年(西暦 2013 年、平成 25 年)で、干支は「癸巳(みずのとみ・きし)」にあたります。「巳」は頭と体が出来かけた胎児を表しているとか、植物に種子が出来始める時期とか、蛇が冬眠から醒めて地上に這い出す姿を表しているとか言われております。また、「巳(蛇)年」は、才能の開花や蒔いた種が実を結ぶ年といわれ、古来より、蛇は信仰の対象とされ、知恵、財産をもたらす神様として崇められ、金運にご利益があるとされております。一昨年発生した未曾有の災害である「東日本大震災」から立ち上がり、当に復興の年である事を示唆しているような気が致します。

「東日本大震災」の規模が極めて大きく、復興元年とされた平成 24 年度は、予算は確保されたものの瓦礫処理をはじめとする復旧・復興は中々進まず、平成 25 年度以降も継続しての復旧・復興事業が必要とされております。海岸沿いでは 1 m もの地盤沈下が広域に発生したため、その復旧・復興にはかなりの時間と巨額

の費用、技術的な裏づけ、更には住民の承諾を得ての街づくりが必要とされております。福島県では、放射能汚染の対策(除染)がまだ未完了であり、本格的復旧・復興にはこれからかなりの時間がかかるものと思われま

す。東北の平成 24 年度の地質調査業は、震災関連の事業が集中して非常に多く発注されたため、ボーリング機械や技術員の不足を招き、年度末の更なる多くの業務の発注への対応が、極めて困難になる事が懸念されております。このように会員の業務量が多い中、会員皆様のご協力の下、活発な協会活動を無事に実施する事が出来ました。

すなわち、5 月の「総会」の他に、以前行われておりました「臨時総会」を復活させ、11 月に福島県いわき市で開催いたしました。

意見交換会は、「宮城県」とは 12 月に 2 年ぶりに再開し、業界の現状を訴えるとともに、①地質調査技術の有効活用、②地質調査の適切な発注、③復興事業の進捗状況と今後の予定などについて意見

.....

を交わしました。2月には、「東北地整局」との意見交換会を宮城県と同じテーマで実施する事になっております。

また、「総合防災訓練」、「地質調査技士や応用地形判読士などの検定試験と講習会」、「独占禁止法研修会」、「除染に関する講習会」、「若手技術セミナー」、「仙台工業高校への出前講座」、「みちのくGIDAS」への参加」を行いました。1月には、三協会合同「賀詞交歓会」、更には講師として宮城県土木部鷲巣俊之次長を招いての「新春講演会」も行いました。また、「九州地質調査業協会研修視察」で被災地の案内を行ったほか、仙台市で開かれた「ジオ・ラボネットワーク経営懇談会」でも東北業界の現況を報告し、それぞれとの親交にも努めました。

ところで、昨年末には政権が交代し、①経済再生②復興③危機管理を掲げた安倍総理が誕生いたしました。総理は、長引くデフレと円高から脱却するための経済再生として、大型の補正予算と来年度予算を組もうとしております。復興・防災に関しても多くの予算が計上されるも

のと思われま。このように「復興2年目」である平成25年度は、業界および協会にとって、極めて忙しく、大事な1年になるものと思われま。この機会に、発注機関だけでなく広く国民、市民に、「安全・安心で豊かな美しい東北」を目指している当業界、当協会の存在を積極的にPRしていきたいものと思っております。そのためには、計画している協会事業への会員各位の積極的参加と絶大なご支援が必要かと思われま。

協会および会員各位にとって素晴らしい一年になる事をお祈り申し上げます。